

2026年3月期 Q1決算説明資料

決算発表・決算説明会：2025年7月31日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2025 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

1. 2026年3月期 Q1決算

2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 Q1決算

2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

	2026/3期 Q1
売上高	14,616 百万円 (前年同期比 + 4.3%)
営業利益	3,272 百万円 (前年同期比 + 2.4%)
四半期純利益	2,302 百万円 (前年同期比 ▲ 1.6%)

決算ハイライト	
増収・営業増益	
外部要因	(+) AF症例数は前年同期比5～6%増加 ⇒ 学会の影響除くと8～9%増加*1
	(-) 一部製品にPFAの影響
	(-) 公定価格の改定(影響2か月)*2
内部要因	(+) コア製品群*3は総じて好調
	(+) 新領域は前年同期比47%増加
	(-) 研究開発費等の販管費増加

*1 2025年5月開催の不整脈関連の主要学会(カテーテルアブレーション関連大会)の影響。同学会は前期は2024年11月(Q3)に開催。学会には全国の不整脈医が参加するため、大会期間の前後で症例数が減少

*2 2024年6月に公定価格が改定。2025年4月、5月の販売単価は前年同月比で下落

*3 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク)

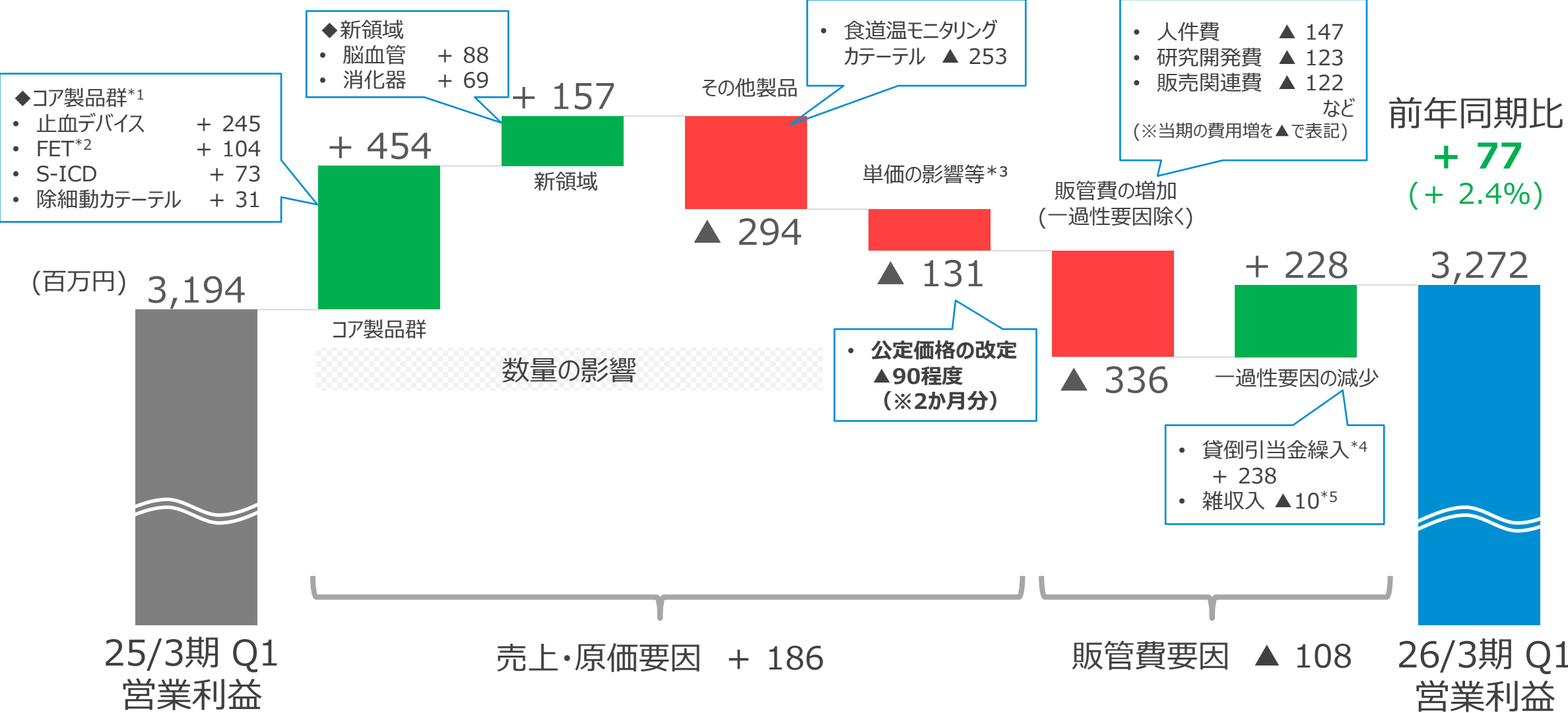
✓ 増収、営業増益。当期純利益は減益

(百万円)	2025/3期 Q1	2026/3期 Q1	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	14,010	14,616	+ 605	+ 4.3	(+) 症例増による販売増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	8,583	8,769	+ 186	+ 2.2	(-) 公定価格の下落(影響2か月分) (-) 自社製品比率の低下
%	61.3%	60.0%		▲ 1.3pp	
販管費	5,388	5,497	+ 108	+ 2.0	次ページで詳細説明
営業利益	3,194	3,272	+ 77	+ 2.4	次ページで詳細説明
%	22.8%	22.4%		▲ 0.4pp	
四半期純利益	2,340	2,302	▲ 37	▲ 1.6	(-) 為替差損の増加 (-) 固定資産除却損の増加
%	16.7%	15.8%		▲ 0.9pp	
自社製品比率	58.2%	55.6%		▲ 2.6pp	脳血管・止血デバイス等の仕入商品の拡大 食道カテーテル等の自社製品の減少*1
海外売上高比率	2.0%	2.4%		+ 0.4pp	
1株当たり利益	31.95円	32.85円	+ 0.90円	+ 2.8	(+) 期中平均株式数(自己株式除く)の減少

*1 自社製品売上高 0.5%減収、仕入商品売上高 10.8%増収

2026/3期 Q1 営業利益の増減分析

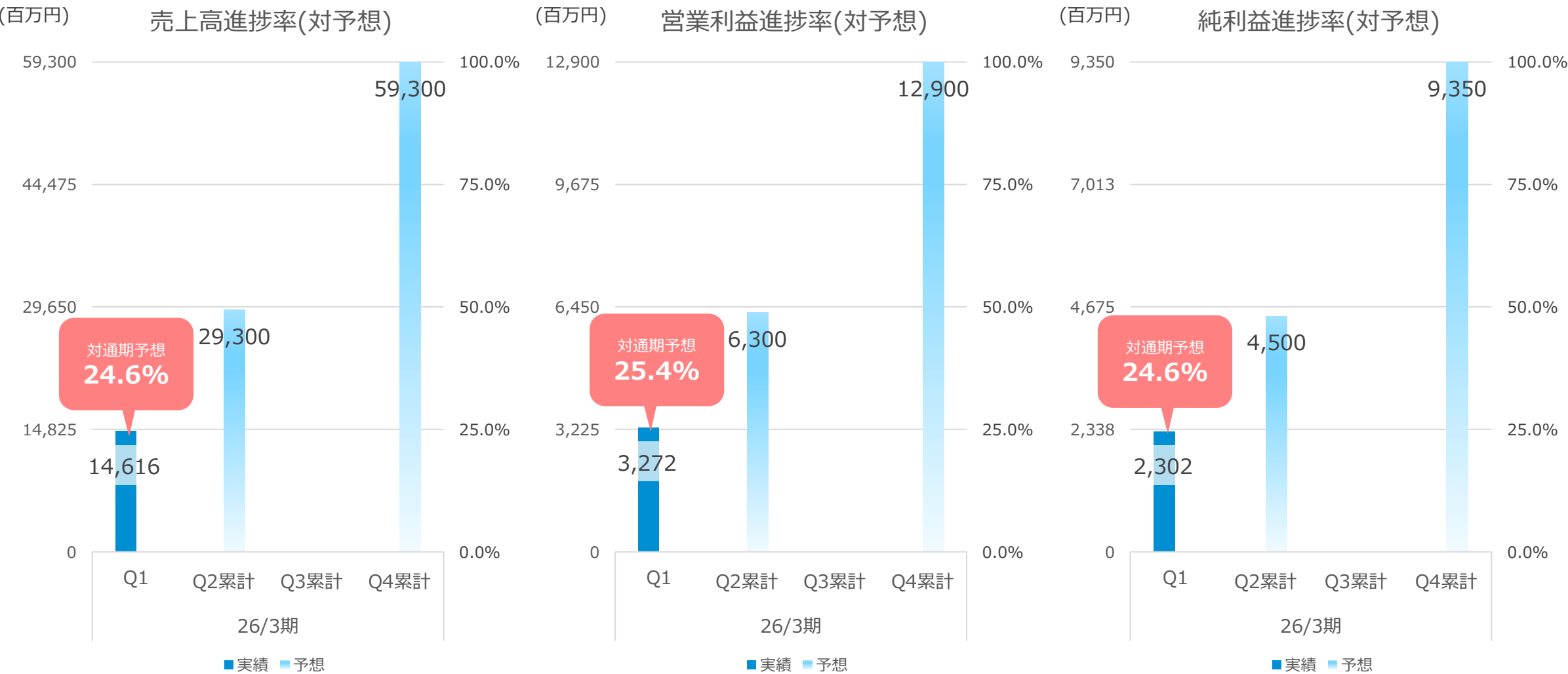
✓ 注力分野の販売数量が増加し、一部製品の数値減と販管費の増加をカバー



*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) *3 主な内訳は販売単価や原価の増減の影響。製品廃棄・評価損の影響等を含む
*4 前年同期に取引先の手形取引停止処分による貸倒引当金繰入を計上 *5 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等

2026/3期 Q1 予想に対する進捗率

✓ Q1は売上・利益ともほぼ期初予想通り順調に進捗



既存領域 【構成比94%】*1

リズムデバイス

23%

- **不整脈**を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション

49%

- **不整脈**手術で使われる医療用管など



【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

心血管関連

22%

- **大動脈**の外科手術で使われる人工臓器など



【コア製品】
FET



中核事業

新領域 【構成比6%】*1

脳血管関連

3%

- **脳血管**の詰まりを解消する管など



血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

消化器

3%

- **消化器**の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

成長事業

*1 構成比は25/3期実績

- ✓ 医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高

=

数量

×

単価

手術件数
(症例数)

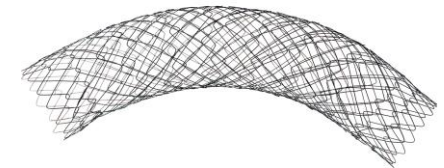
×

当社シェア

公定価格
(保険償還価格)

×

掛率
(代理店卸値)

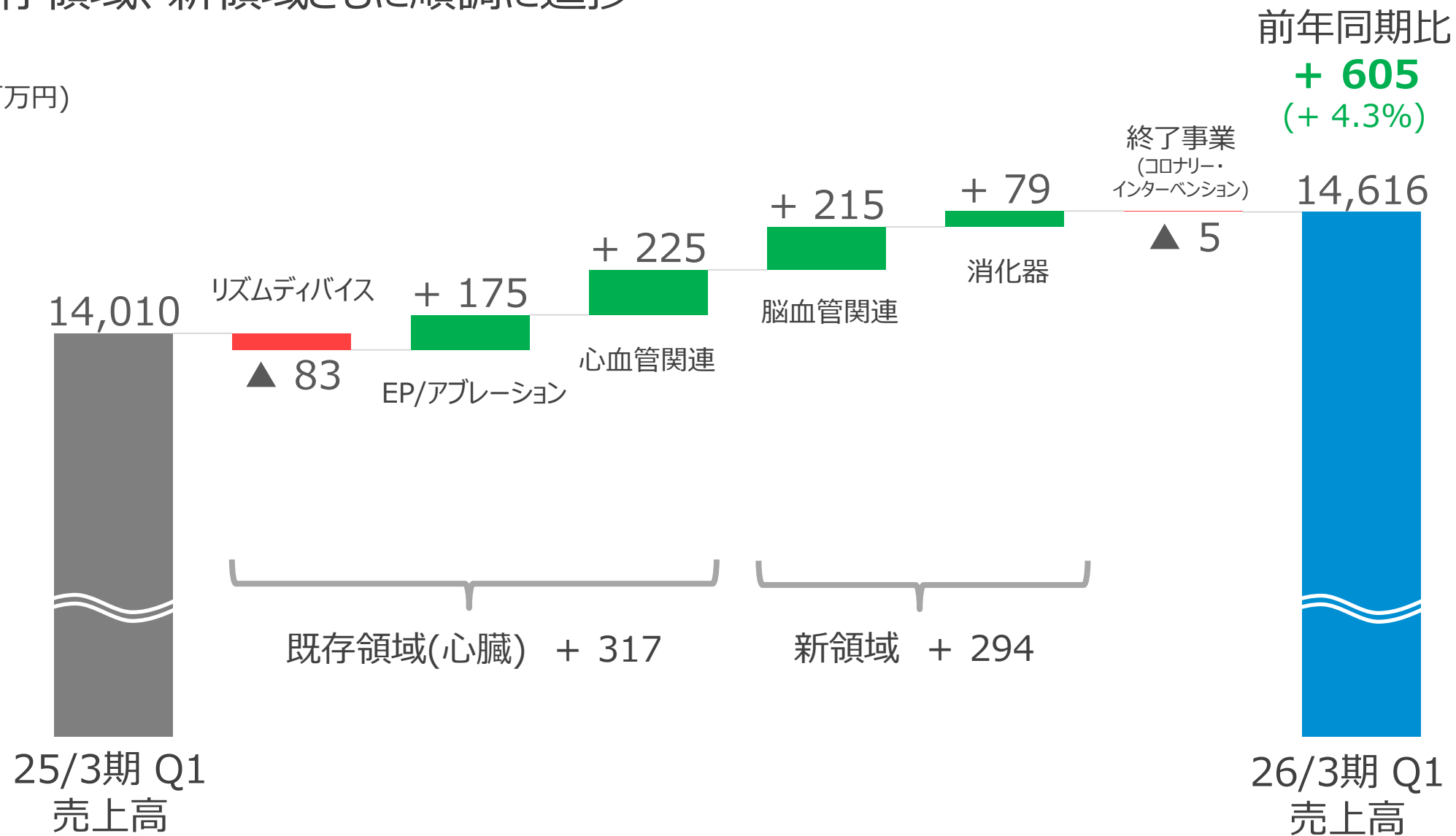


取扱製品のほとんどが、手術で使用する使い切りの医療機器

2026/3期 Q1 売上高 増減分析

✓ 既存領域、新領域ともに順調に進捗

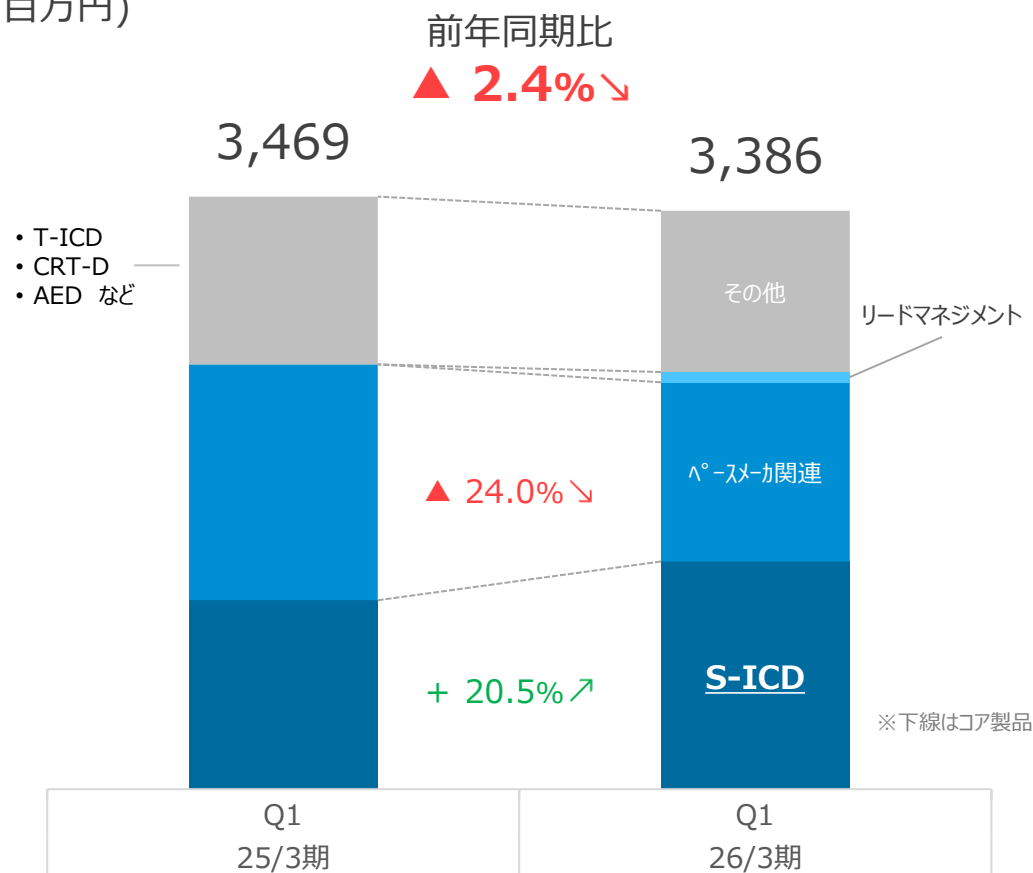
(百万円)



コア製品のS-ICDは二桁成長を継続するも、ペースメーカーで苦戦し減収

リズムデバイス 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のS-ICD 20.5%増収

- 一次予防(致死的不整脈発症前の予防的な植え込み) のトレンドが加速し、症例数が増加 (前年同期比+9%)
- 他社の新製品発売の影響を若干受けるも、新規症例を多く獲得

(-) ペースメーカー関連 24.0%減収

- 他社リードレスペースメーカーの浸透(新規市場の30%)が逆風
- 公定価格改定の影響(約14%下落)あり ※2か月分
- 前年同期に本体交換需要で一時的な増加あり

(+) リードマネジメント製品 Q1より販売開始



✓ 取扱製品ポートフォリオと親和性の高いリードマネジメントに仕入品で参入

製 品	フィリップス社製 リードマネジメントデバイス
使 用 場 面	植込みデバイスに接続された心内リードを抜去する (感染症、リードの損傷など)
販 売	2025/5 販売開始 - 心臓植込みデバイスの植込みから抜去まで一貫したサポートを提供
市 場	- 年間約1,000例 - 市場規模7億円 ⇒ 潜在的に20～25億円*3
主 な 特 長	- エキシマレーザを用いた安全かつ効率的な抜去 - 国内市場でトップシェア(60%超)



エキシマレーザ心内リード抜去システム*1

「GlideLight レーザシース」

保険償還価格：311,000円*2



リードロックングデバイスキット

「リードロックングデバイスキットLLD」

保険償還価格：91,000円



Bridge オクリュージョン
バルーンカテーテル

「Bridge バルーン」

保険償還価格：38,100円

*1 製品画像に関する著作権はPhilips社が保有する *2 保険償還価格は2024年6月1日時点 *3 心内リード抜去はリスクのある処置のため、本来処置するのが望ましいが実施されないケースがあると推測される。本品を用いた安全なリード抜去を啓発することで、市場の拡大が期待される

コア製品の好調な販売でPFAの自社製品への影響をカバー

EP/アブレーション 売上高

(百万円)

前年同期比
+ 2.5% ↗

7,101

7,276

- ・アブレーションカテーテル
- ・ステイラブルシース
- ・輸出 など

大腿静脈用止血デバイス
「VASCADE MVP」

▲ 6.8% ↘

▲ 47.5% ↘

2.5倍 ↗

+ 3.6% ↗

EPカテーテル*1

食道温モニタリング
カテーテル

止血デバイス

心腔内除細動
カテーテル

※下線はコア製品

Q1
25/3期

Q1
26/3期

市況 & 販売ハイライト

(+) 心房細動(AF)症例の増加 前年同期比+5~6%

- 学会の影響を含む*2 これを除くベースでは同+8~9%と推定

(+) コア製品の心腔内除細動カテーテル 3.6%増収

- 推定自社シェア96% (6月) : YoYでシェア2pt減少
- 前期末に一括販売した影響あり(将来需要の先取り)

(+) コア製品の止血デバイス 前年同期比 2.5倍

- ハイボリューム施設での新規採用、小規模施設への浸透が進む

(-) PFA*3の影響を受ける

- PFAはAF症例全体の55%まで普及(6月)
⇒ 当期末想定50%→60%に引上げ
- 食道温モニタリングカテーテル 47.5%減収 (PFAで不要)
- EPカテーテル*1 6.8%減収 (PFAで使用本数が減少)

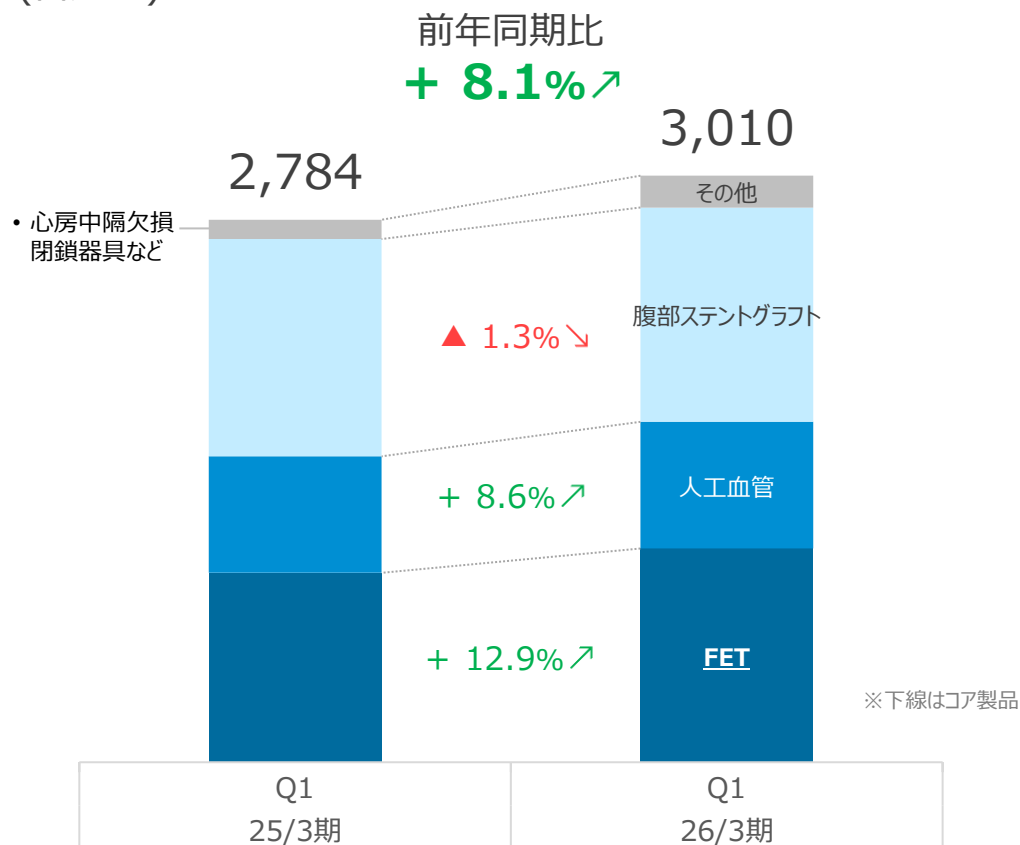
公定価格改定の
影響(4~8%下
落)も含む

*1 心腔内除細動カテーテルおよび食道温モニタリングカテーテルを除く電極カテーテル *2 2025年5月開催の不整脈関連の主要学会(カテーテルアブレーション関連大会)の影響として2営業日弱程度あったと推定。同学会は前期は2024年11月(Q3)に開催。学会には全国の不整脈医が参加するため、大会期間の前後で症例数が減少 *3 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション。カテーテルアブレーションの新しい治療法

Frozen Elephant Trunk (FET)*¹が二桁成長し、増収をけん引

心血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のFET 12.9%増収

- FETの症例数が増加 前年同期比+10%
- 単価の高い「4分岐一体型」製品の数量が増加
- 不足していたサイズ(長さ・径)を充足、競争力を強化
⇒ 推定自社シェア88%(6月) 強化の効果はQ2以降を見込む

(+) 人工血管 8.6%増収

- 他社が一部の製品ラインから撤退し、自社シェアが増加

(-) 腹部ステントグラフト 1.3%減収



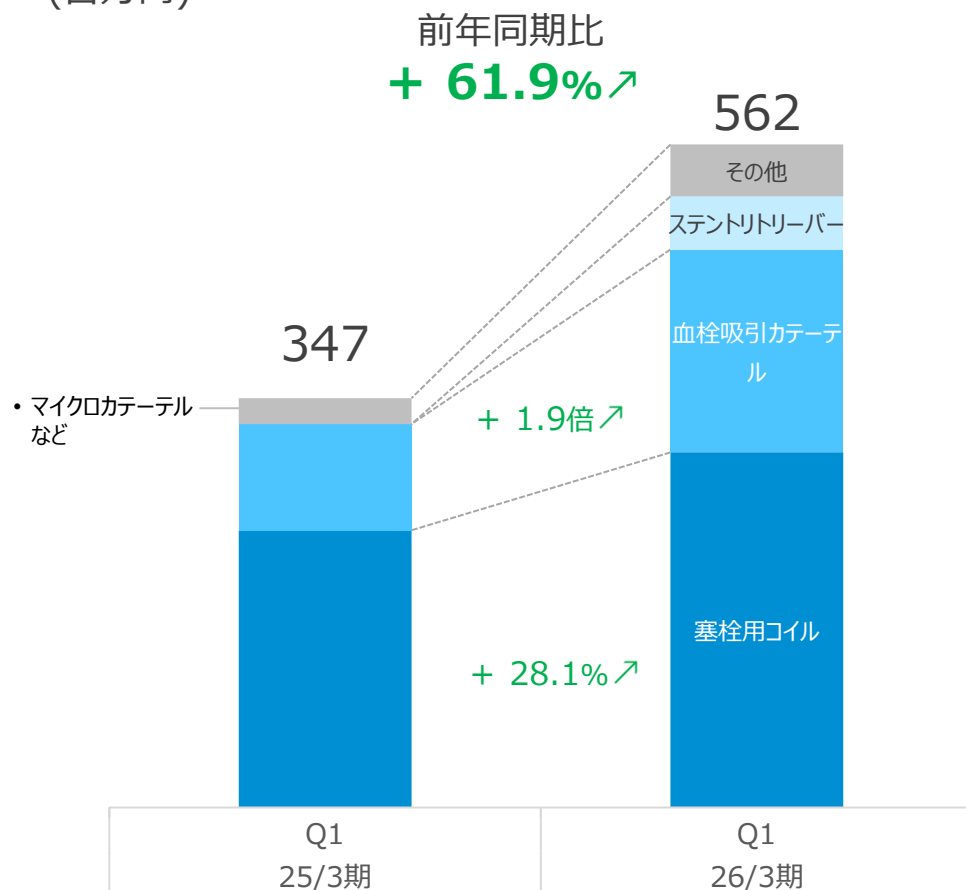
FET 人工血管一体型
「Frozenix 4 Branched」

*1 FET : 大動脈疾患の開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管

各製品が順調に進捗、高成長をけん引

脳血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) 塞栓用コイル 28.1%増収

- 主力モデルを中心に販売は好調に推移
- 放射線科向けの新モデルを導入し診療科を拡大

(+) 血栓吸引カテーテル 前年同期比 1.9倍

- 細径モデルを追加、市場の約30%を占める末梢の症例にアクセス開始
- 推定自社シェアは20%程度に拡大、業界3番手に躍進

(+) ステントリトリバー 預託施設数を伸ばす



塞栓用コイル
「MEGANir HELICAL」
(放射線科向けモデル)



血栓吸引カテーテル
「Esperance 3+」



ステントリトリバー
「pRESET」

注力している胆膵領域を主軸に順調に拡大

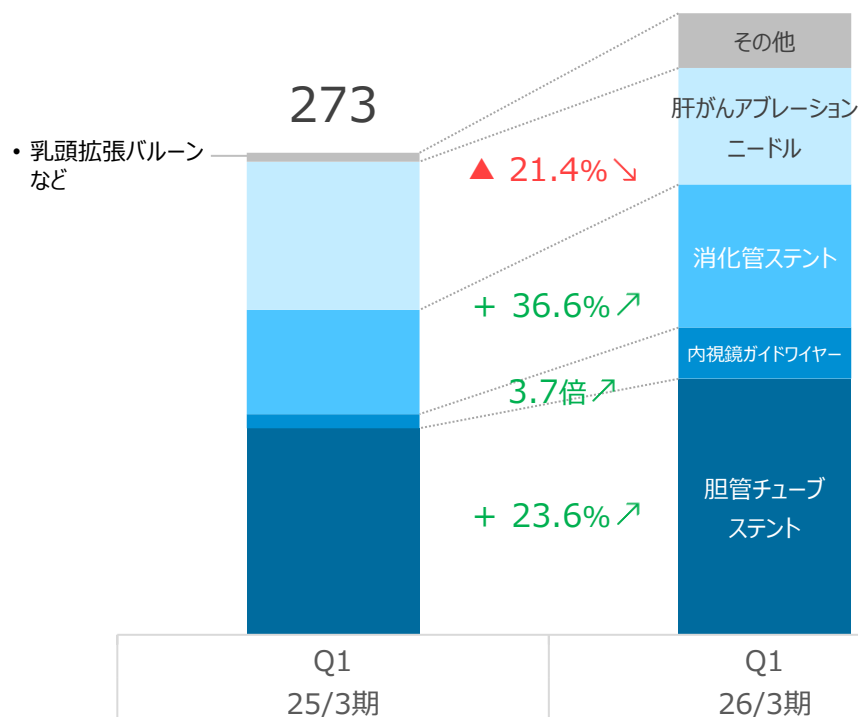
消化器 売上高

(百万円)

CI*¹含まない消化器のみ*²
前年同期比

+ 29.0% ↗

352



市況 & 販売ハイライト

(+) 胆管チューブステント 23.6%増収

- 形状の異なる新モデルを上市し、顧客訴求力を強化

(+) 内視鏡ガイドワイヤー 前年同期比 3.7倍

- 前期末よりフルローンチ開始

(+) 消化管ステント 36.6%増収

- 前年同期に胃・十二指腸用ステントで自主回収発生、改良品が伸長

(-) 肝がんアブレーションニードル 21.4%減収

- Q1からテルモ社への販売移管開始、販売単価は減少



既存モデル：ストレートタイプ

胆管チューブステント
「REGULUS」



新モデル：ピッグテールタイプ

*1 CI: Coronary Intervention 心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに関連する事業で24/3期に終了(一部の売上が残る)

*2 CIを含むベースでは25/3期Q1 307百万円 26/3期Q1 380百万円 (前年同期比23.9%増収)

- ✓ 中期経営計画の数値目標へのコミットメントを高めるため、有償ストック・オプションを導入

割当する株式の種類	新株予約権 1 個あたり普通株式100株
割当対象者・個数	当社取締役（監査等委員除く） 10名 6,150個 当社執行役員 6名 900個
発行総数	7,050個 ※すべて行使された場合、705,000株に相当し、発行済株式総数71,300,000株に対する比率は1.05%
新株予約権の割当日および払込期日	2025年8月19日
オプション価額	新株予約権 1 個あたり100円
行使価額	1,458円 (2025年7月30日の終値)
権利行使期間	2028年7月1日から2035年8月18日
行使の条件	2028年3月期に連結売上高700億円を超過した場合

1. 2026年3月期 Q1決算

2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 Q1決算
2. 質疑応答

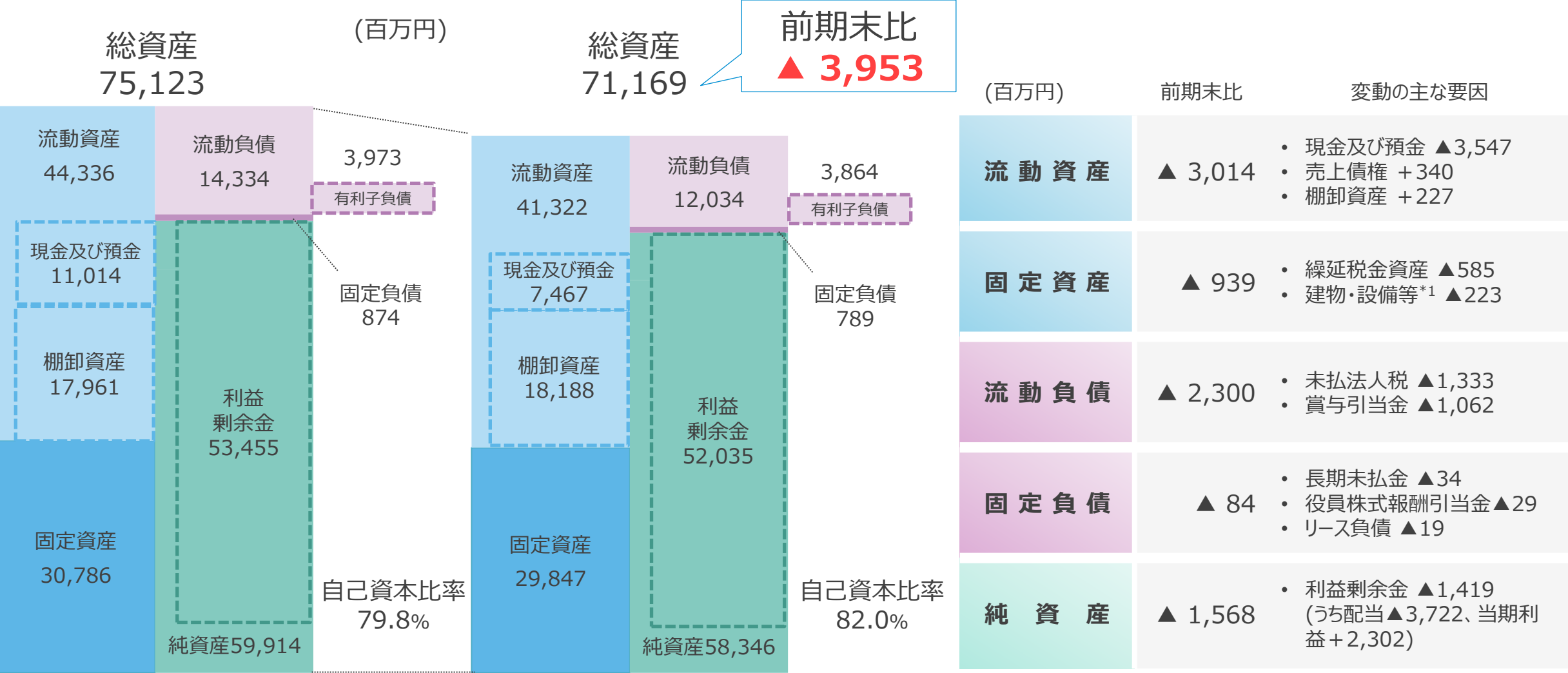
Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

2026/3期 B/Sサマリ（対前期末）

✓ 配当支払や法人税支払などにより、前期末からバランスシートは縮小



2025/3末時点

2025/6末時点

*1 建物、構築物、機械及び装置、車両及び運搬具、器具及び備品、一括償却資産、リース資産

事業環境 現時点から6か月先の見通し

✓ 売上高のQ単位のトレンドを矢印で表す。前回の見通しに変更がある場合は、コメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2026/3期 Q1 実績		2026/3期 Q2 予想		2026/3期 Q3 予想	
		営業日数：62		営業日数：62		営業日数：60	
リズムデバイス	ペースメーカ関連		他社リードレスの拡大 営業日数 前Q+5日、以下同		前Qから大きな変化なし		前Qから大きな変化なし 営業日数 前Q▲2日、以下同
	ICD関連	 前回： →	S-ICD好調。T-ICD軟調		他社新型ICD増加、S-ICD交換症例減少		前Qから大きな変化なし
EP/アブレーション	EPカテーテル		AF症例増YoY5～6%増に伴う除細動カテ増加。PFA拡大による食道カテ等の減		AF症例数YoY9～10%増。PFA浸透スピードは一旦落ち着くか		AF症例数YoY9～10%増
	ABLカテーテル	 前回： →	ABLカテーテル全般軟調	 前回： →	前Qより厳しい状況を見込む		前Qより厳しい状況を見込む
	その他		止血デバイス伸長		前Qから大きな変化なし		前Qから大きな変化なし
心血管関連	人工血管関連		季節性の減。FETにおける市場拡大・競争激化		前Qから大きな変化なし。FETは追加した太径サイズの寄与		前Qの状況継続＋季節性の増
脳血管関連	脳血管関連	 前回： ↘	血栓吸引カテ細径モデル寄与。コイル堅調	 前回： ↗	前Qから大きな変化なし		ステントリトリバーのマーカ付の新モデル寄与
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	 前回： →	前Qに肝がんニードル一括納入。チューブステントは新モデル追加で伸長		消化管ステント持ち直し。胆管バルーン・チューブステント・ガイドワイヤー伸長		前Qより個別の製品をさらに伸ばす

凡例：
 前Qより増加
 前Qから横ばい
 前Qより減少
 前Qから横ばい
環境はポジティブ
環境はネガティブ
環境はネガティブ

1. 2026年3月期 Q1決算
2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

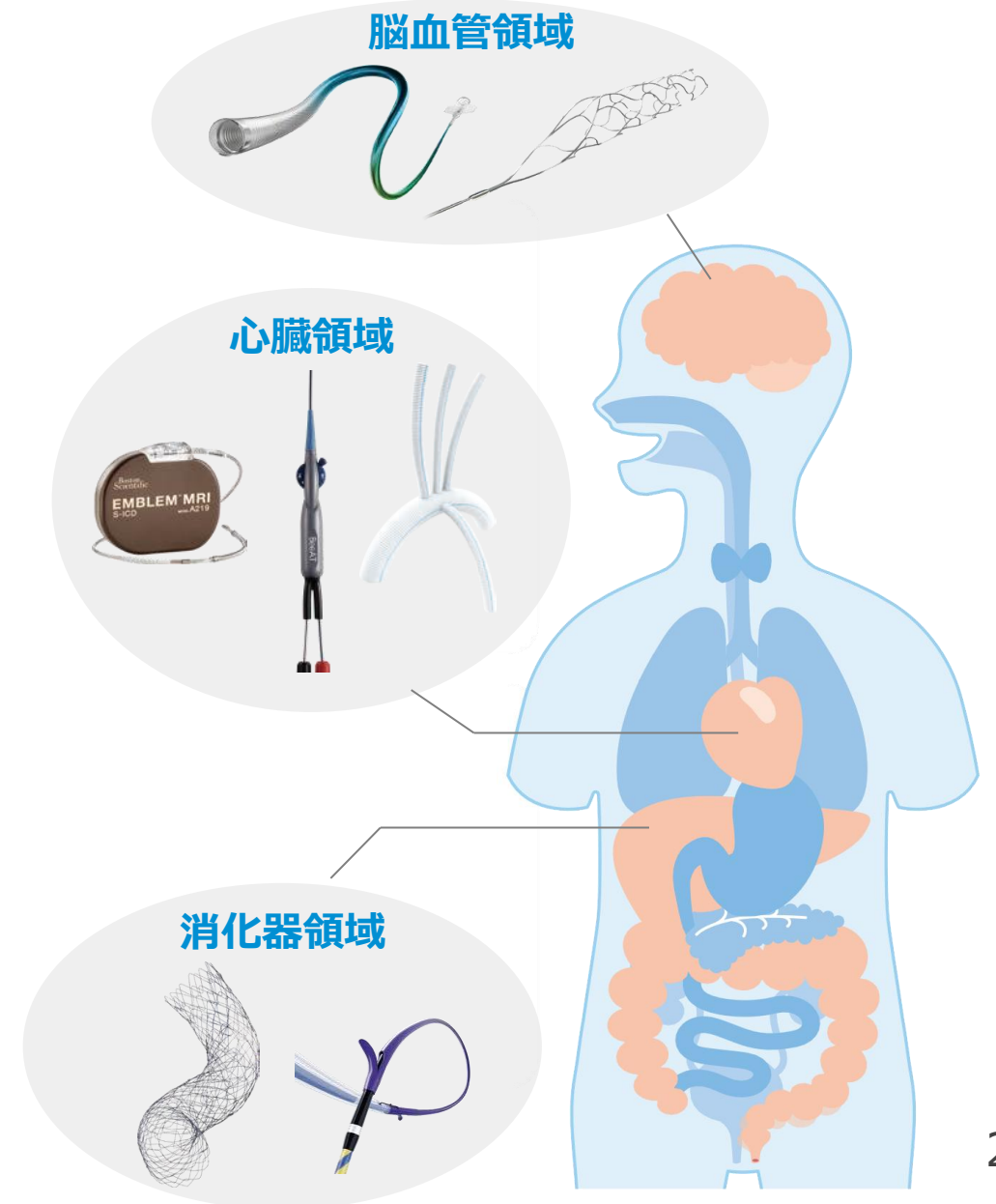
◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

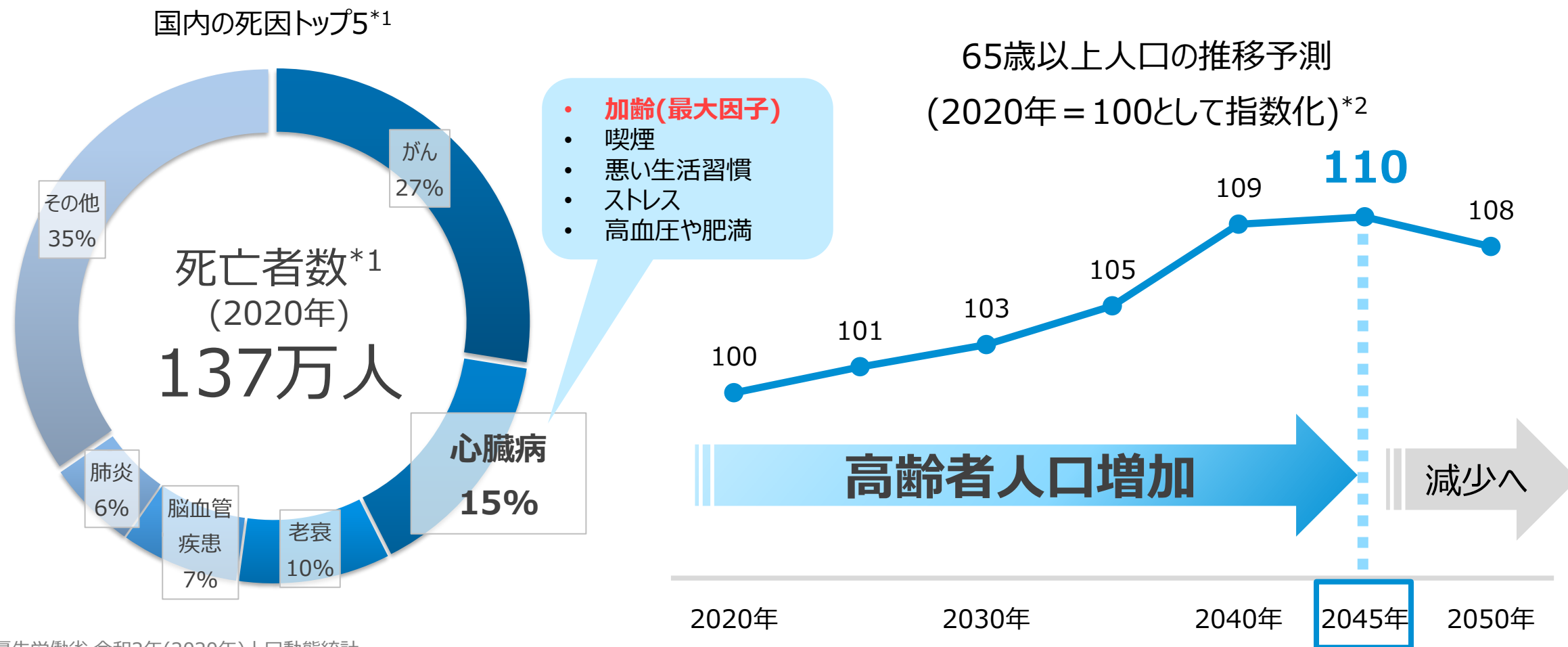
フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



- **心臓領域**の医療機器でニッチトップ°
- 生命に関わる**高度管理医療機器**を扱う
- **高利益**(営業利益率20%+)と**高成長**を実現



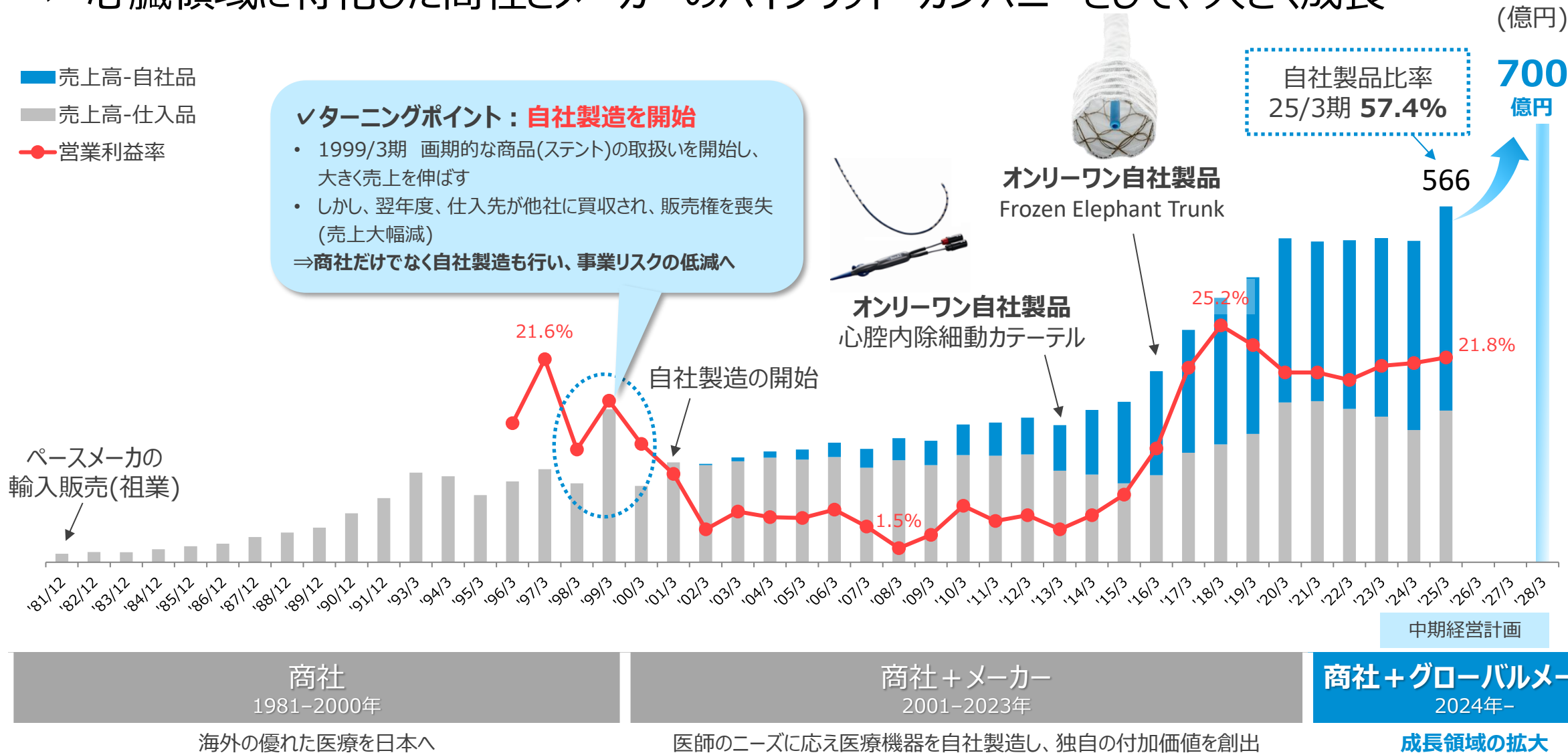
✓ 高齢者の人口増加とともに、今後20年は心臓病関連の医療需要は増加する見通し



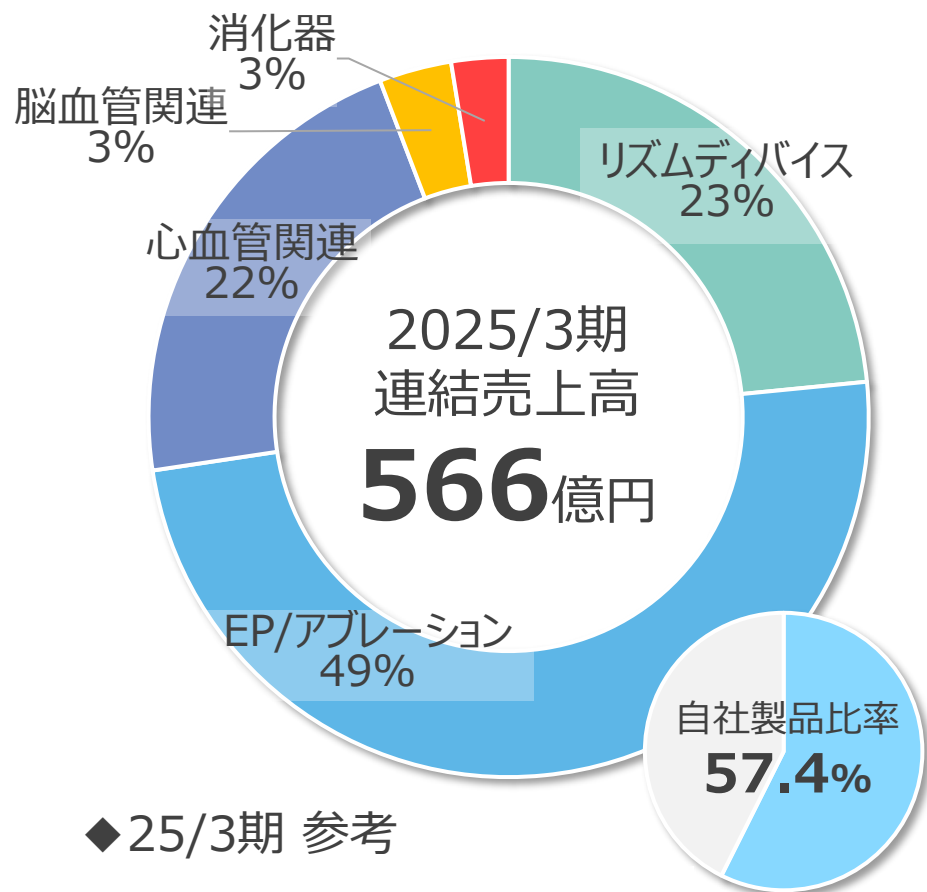
*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計

*2 内閣府 令和5年(2023年)版高齢社会白書

✓ 心臓領域に特化した商社とメーカーのハイブリッド・カンパニーとして、大きく成長



✓ メインは心臓疾患(全体の94%)、近年は脳血管や消化器などの新領域にも進出中



◆ 25/3期 参考

売上総利益率 60.4%

営業利益率 21.8%

	対象疾患	主な製品	自社製品比率	事業位置づけ
既存領域	心臓 (不整脈)	ペースメーカーやICD 	0%	安定事業
	心臓 (不整脈)	心腔内除細動カテーテル 	85%	中核事業
	心臓 (大動脈疾患)	人工血管 	60%	中核事業
新領域	脳 (脳卒中)	塞栓用コイル 	0%	成長事業
	消化器 (がん、結石)	胆管チューブステント 	95%	成長事業

- ✓ メーカー機能で安定した競争基盤を構築しつつ、商社機能で戦略的商品をスピーディーに導入。これにより、ポートフォリオ全体で高い競争力を維持

メーカー



- 独自技術で医師が操作しやすい機器を製造販売
- 心臓領域に特化（消化器領域にも応用中）
- 毎回の手術で使うベーシックなラインナップを網羅



商社



- 海外の革新的な機器を素早く国内に導入（日本の現地法人の機能をフルパッケージで提供）
- 長期独占販売契約
- 戦略的に自社製品ポートフォリオのすき間を埋める

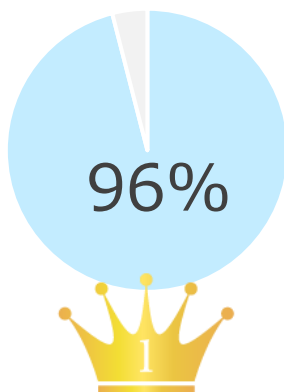
✓ メーカーと商社の**コア製品群**で、高い市場シェア*¹を獲得(全社売上高の45%程度を占める)

メーカー

心腔内除細動
カテーテル



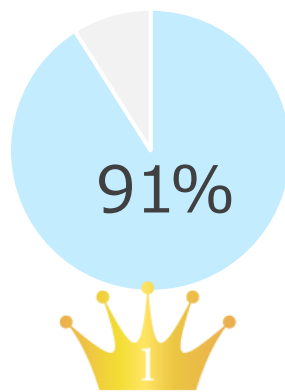
国内シェア



Frozen Elephant
Trunk



国内シェア

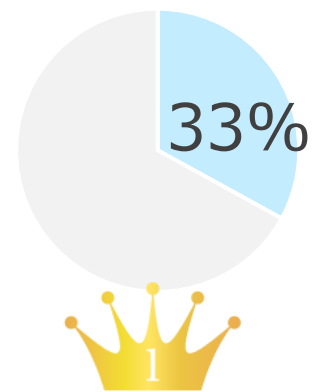


商社

植込み型除細動器
(ICD)



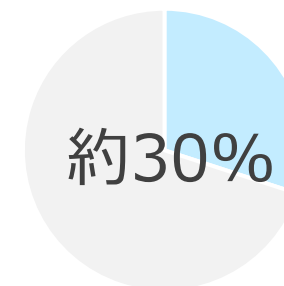
国内シェア



静脈止血デバイス



AF症例シェア



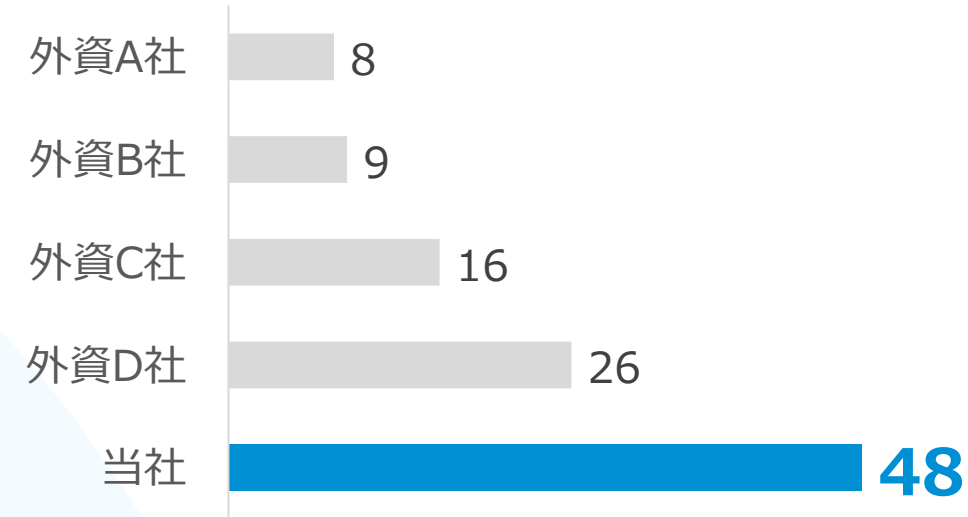
*1 市場シェアは2025年3月時点での自社推計

強み② 業界No.1の販売力

- ✓ 業界トップクラスの営業網を構築し、自社セールスが地域ごとにきめ細かく対応
- ✓ 製品の緊急度が高いため、「いつでも顔の見える営業」は安心と信頼の付加価値を創出



当社と主な競合外資の営業拠点数の比較



出所：各社ホームページをもとに弊社作成（2025年6月）

*1 国内で不整脈手術(アブレーション実施施設)を実施する約770施設、心臓外科手術を実施する約560施設に対する販売実績をもとに当社推定（2023年）

- ✓ 医療機器が手術で使用される度に売上発生 ⇒ 売上は手術件数(=症例数)に連動
- ✓ 手術件数は中長期的に増加トレンドが継続する見通し

収益モデル

JL Japan Lifeline



全国の営業拠点

①直接営業
在庫預託



医療機関



②手術で使用

※ここで売上を認識

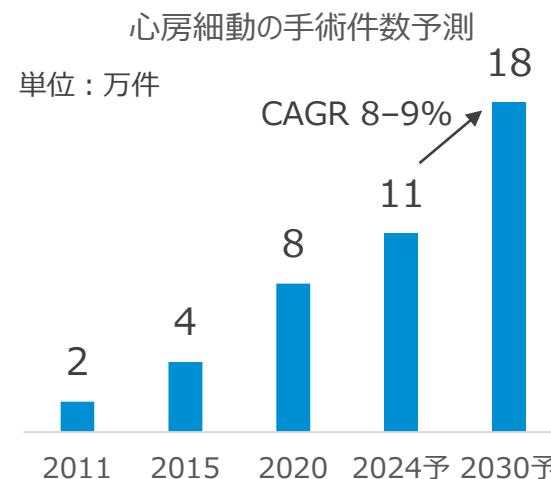
③支払

※販売代理店を経由



収益ドライバー：手術件数

心房細動の潜在患者数
100-170万人



出所：自社調査を元に推計

- 年間の手術件数10万件前後に対して潜在患者数は10倍以上
- 無自覚で未治療の「予備軍」が多く、近年は、ウェアラブル端末の発達により、患者の掘り起しが進んでいる

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

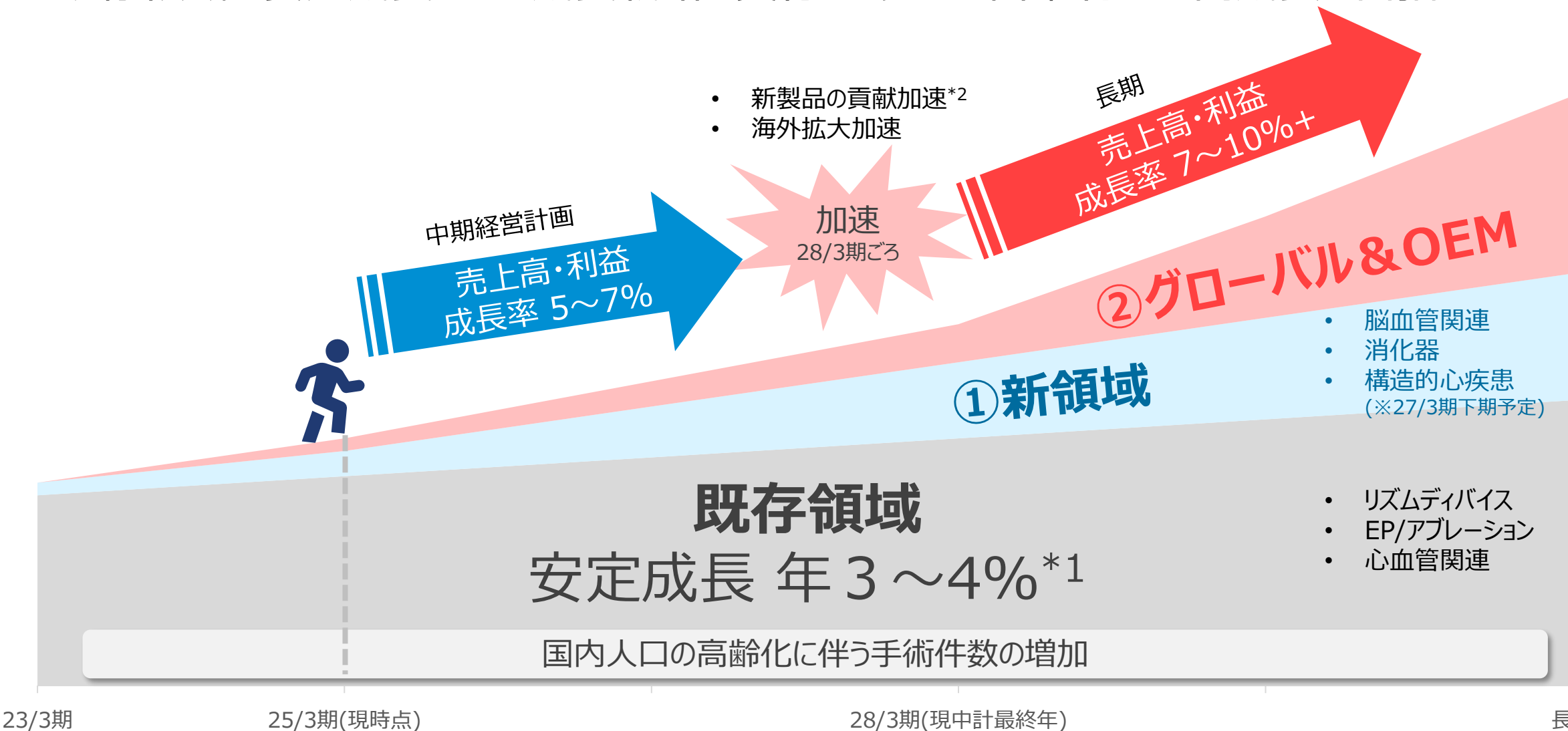
◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



- ✓ 既存領域で安定成長しつつ成長戦略を実行し、売上・営業利益の高成長を目指す



^{*1} 中長期の平均成長率のイメージ。単年度では公定価格改定や特定製品の販売開始・終了等の要素により、上下にブレる可能性がある ^{*2} リードスペースメカ(リズムデバイス)、PFAカテーテルOEM輸出(EP/アブレーション)、フローダイバーター(脳血管関連)、経カテーテル生体弁(構造的心疾患)など

中期経営計画(2024/3期～2028/3期) 数値目標

✓ 2025/5に計画最終年の目標値を上方修正

	2025/3期 実績	2028/3期		修正内容	修正の主な理由
		旧目標 (2023/5設定)	新目標 (2025/5設定)		
売上高	566億円	630億円	700億円 3年CAGR7.3%	+70億円	- AF症例数の想定を上方修正(5年CAGR6%→9%) - グローバル売上高の伸長
新領域売上高	32億円	80億円	110億円	+30億円	経カテーテル生体弁(TAVI/TAVR)への参入
営業利益率	21.8%	20%水準 (每期)	20%水準 (每期)	変更なし	—
EPS	131円	120円	145円	+25円	売上高成長に伴う利益成長
ROIC	13.7%	12.0%	13.0%	+1.0pp	粗利率と棚卸資産効率の改善に向けた取組みを推進

中長期戦略タイムライン

従来戦略
(24/3期～)

新しい戦略
(25/5追加)

JL Japan Lifeline

✓ 従来戦略に加え、新しい4つの戦略を推進。中長期の成長ドライバーとして取り組む

24/3期

25/3期

26/3期

27/3期

28/3期

29/3期以降

中核事業の競争力強化(EP/アブレーション & 心血管関連)

①既存領域

米CardioFocus社とのPFA製品の共同開発

海外向けOEM

国内販売開始

自社ブランド

②新領域

脳血管領域のポートフォリオ確立

消化器領域のポートフォリオ確立

構造的心疾患領域への参入

③グローバル

グローバル売上高の拡大

中東/アジア

欧米

④OEM

他社ブランド製造受託(OEM戦略)を推進

複数プロジェクトを検討中

①既存領域 中核事業の強化 – EP/アブレーション

✓ 症例数(市場)は5年CAGR9%の高成長を予想。コア製品の拡大を通じて成長を取り込む

施策①

自社No.1をさらに強化

自社品

心腔内除細動カテーテル BeeATシリーズ



名称	SVC BeeAT	Lumen BeeAT	IVC BeeAT
リリース	2012年	2024/1	2024/4
モデル構成比	55% 切替中	10%	35%
挿入部位	首	首	足
競争	2社(当社除く)	当社のみ	当社のみ
戦略	SVCモデルから高付加価値のLumenモデルとPFAで選好されやすいIVCモデルへ販売を切替え、参入障壁を構築		

施策②

新市場を開拓

仕入品

大腿静脈用止血デバイス VASCADE MVP



従来の止血法

手で押さえる
⇒長時間の
安静が必要

新しい止血法

早期止血
早期歩行
早期退院

- ・ アブレーション手術後の止血ニーズに応える
- ・ 推定市場規模40–50億円を開拓へ

①既存領域 中核事業の強化 – EP/アブレーション

✓ 競争力ある製品でパルスフィールドアブレーション(PFA)にも参入を目指す

施策③

米CardioFocus社とPFA製品を共同開発し、グローバル市場で販売

2025/5 追加

JL Japan Lifeline

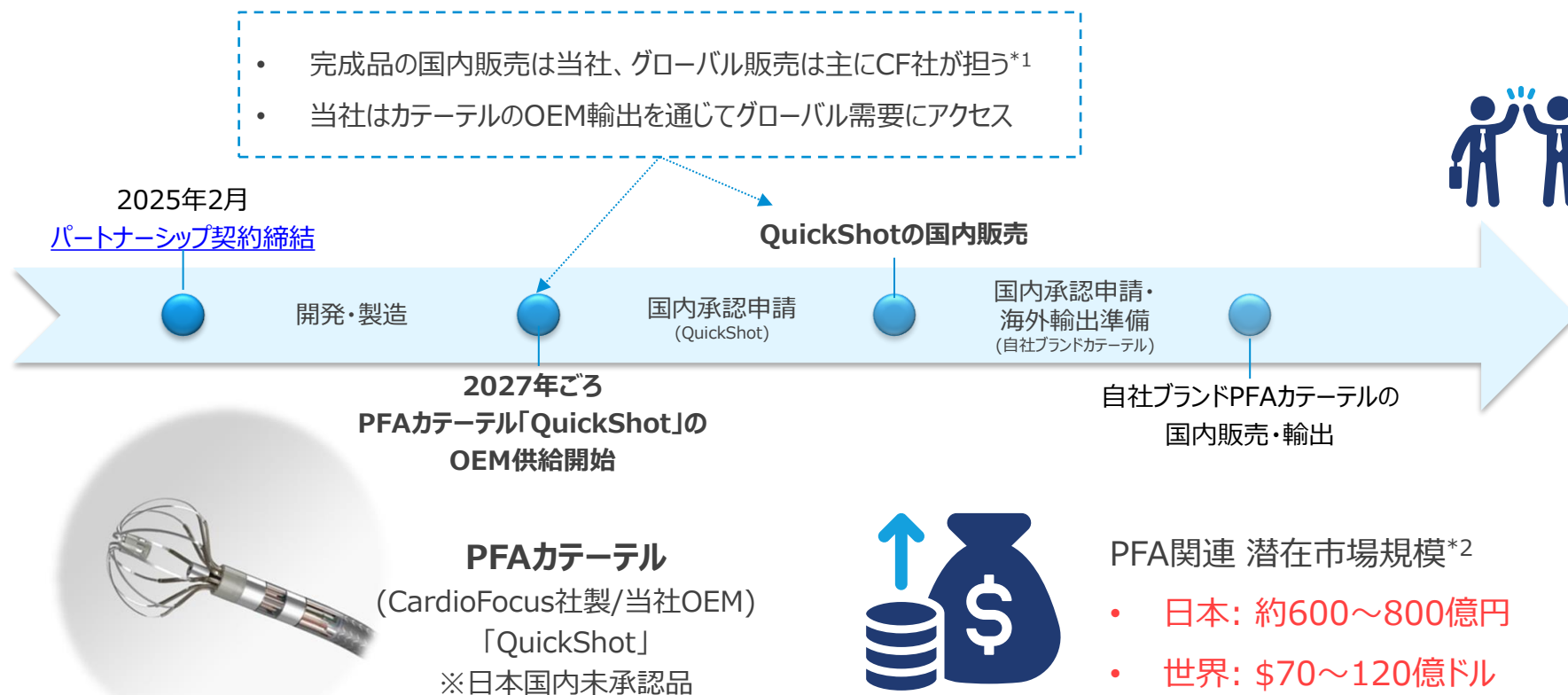
機能性・操作性の高い
カテーテル開発・製造に強み

戦略的パートナーシップ

CARDI*FOCUS

PFAカテーテル・出力装置・
PFA臨床ノウハウに強み

- 完成品の国内販売は当社、グローバル販売は主にCF社が担う*1
- 当社はカテーテルのOEM輸出を通じてグローバル需要にアクセス



*1 韓国・台湾での販売権は当社が持つ *2 出所：日本市場は自社推計、世界市場はClarivate

PFA(パルスフィールドアブレーション)とは？

- ✓ PFAとは、不整脈の新しい治療法。従来より合併症リスクが低いため、急速に普及が進む*1
- ✓ 当社はPFAは未導入であり、短期的にはややネガティブな影響を受ける

	従来の治療*2	新しい治療（PFA）
国内承認	1994年	2024年
エネルギー	熱	パルス電圧
合併症リスク (相対的)	大 (心筋以外の組織を損傷)	小 (心筋のみを選択的に治療)
手術時間	2-3時間	1-2時間
参入企業 (25/6時点)	当社含む各社	・ ジョンソン・エンド・ジョンソン ・ 日本メドトロニック ・ ボストン・サイエンティフィックジャパン

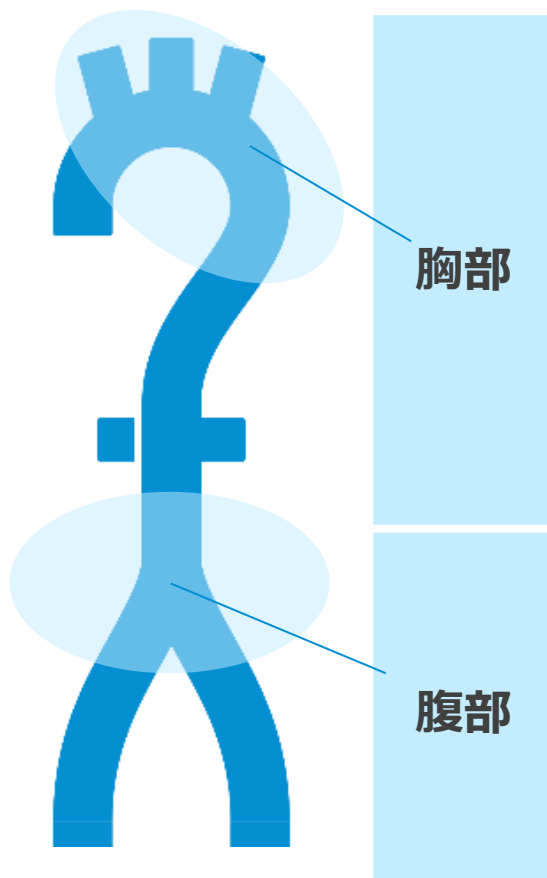
当社EP/アブレーション事業への影響			
サブカテゴリ	主な品目	売上目安*3	影響
EPカテーテル	食道温モニタリングカテーテル	25億円	ネガティブ (PFAでは必要ない)
	心腔内除細動カテーテル	150億円	ややポジティブ (中期的に症例数増加の恩恵)
	上記以外診断カテーテル	50億円	ややネガティブ (一部の製品が使われない)
アブレーションカテーテル	高周波カテーテル	数億円	ネガティブ (PFAに代替される)
その他	止血デバイス	20億円強	ややポジティブ (中期的に症例数増加の恩恵)

*1 2025/3時点の普及率は約35%(症例数ベース) *2 主にラジオ波高周波(RF)。ホットバルーン、レーザーバルーン、クライオバルーンなども含む *3 目安は25/3期の実績

①既存領域 中核事業の強化 - 心血管関連

- ✓ 高成長のFrozen Elephant Trunkにフォーカス。胸部用ステントグラフトにも再参入へ
- ✓ フルラインのポートフォリオを構築し、あらゆる症例に対応可能なリーディングカンパニーを目指す

大動脈のイメージ

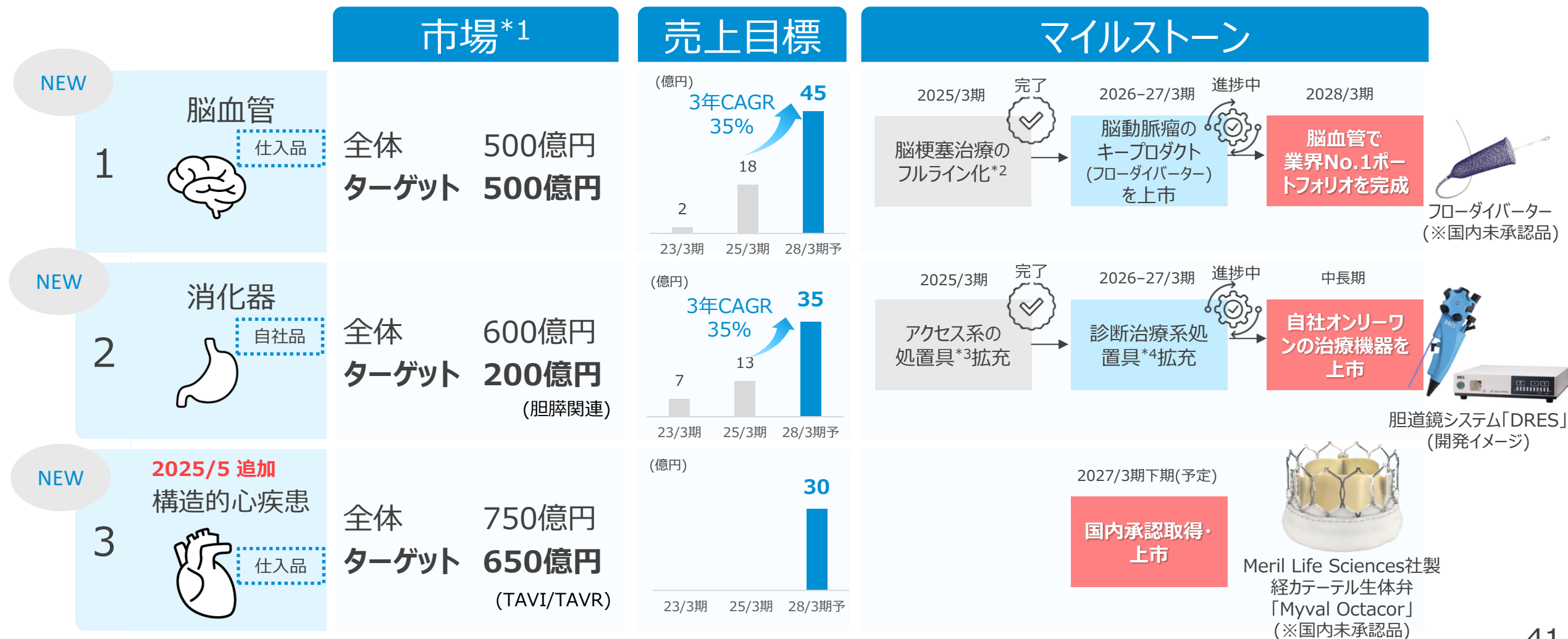


施策②
競争力ある
製品で再参入へ

* 各症例数は自社推計

②新領域 - 3つの市場を開拓

✓ 各市場で早期の製品ポートフォリオ確立を目指す



*1 2025年当社推定 *2 血栓吸引カテーテルおよびステントリトリバー *3 ガイドワイヤ、ダイレータ、バルーンなど *4 結石回収、ステント、胆道鏡など

✓ 印Meril社とTAVI/TAVR製品*¹を皮切りに構造的心疾患領域を今後開拓へ

構造的心疾患

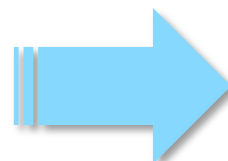
Structural Heart Disease (SHD)

心臓の壁や弁などの**構造の異常**に起因する心疾患
→デバイスを用いた**低侵襲なカテーテル治療**が浸透中

弁膜症

(大動脈弁/僧帽弁など)

経カテーテル生体弁 (TAVI/TAVR)



先天性心疾患

(心房中隔欠損/卵円孔開存など)

- 心房中隔欠損閉鎖器具(ASD)は参入済み(2016年)
- **卵円孔閉鎖器具(PFO)**も今後導入予定
- その他のデバイスも検討中



経カテーテル生体弁
(Meril Life Sciences社製)
「Myval Octacor」
※日本国内未承認品

潜在市場



- ✓ 現在650億円
→**1,000億円以上**
(日本)

収益性



- ✓ 仕入品の中でも**トップ**
クラスの粗利率を確保

製品の強み



- ✓ 正確な留置性能
- ✓ 至適なサイズ選択

製品ローンチ



- ✓ 27/3期下期予定

*1経カテーテル的大動脈弁植込術 (Transcatheter Aortic Valve Replacement/Implantation)

③グローバル売上高の拡大

2025/5 追加

JL Japan Lifeline

✓ 中長期的に除細動カテーテルなどのコア製品の米国輸出を目指す

～28/3期

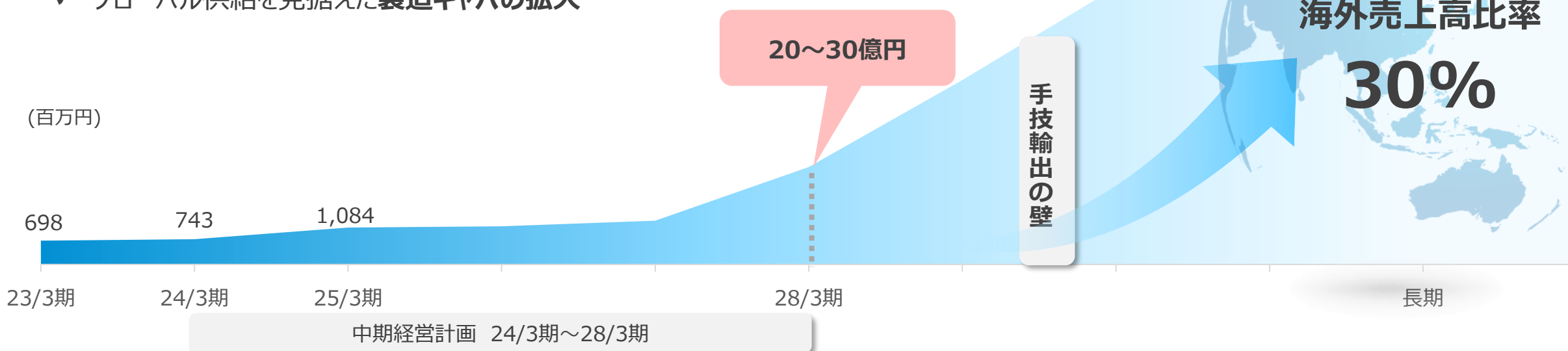
中東・アジアの販路立上げ
(進行中)

- ✓ 国内承認で展開できる中東・アジアの10数か国へ**現地販売代理店を通じた展開**
- ✓ **EP/アブレーション、心血管関連、消化器**の幅広い自社製品が対象
- ✓ FDA承認・CE承認取得のための**QMSR(品質管理システム規制)**への対応
- ✓ グローバル供給を見据えた**製造キャパの拡大**

中長期

欧州・米国市場へ進出

- ✓ 自社製品の**米国FDA/欧州CE承認取得**
- ✓ 国内で圧倒的なシェアと実績を持つ**除細動カテーテルやFrozen Elephant Trunk製品の輸出**
⇒日本の最新の知見(手技)を海外に発信・普及させ、市場を開拓



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



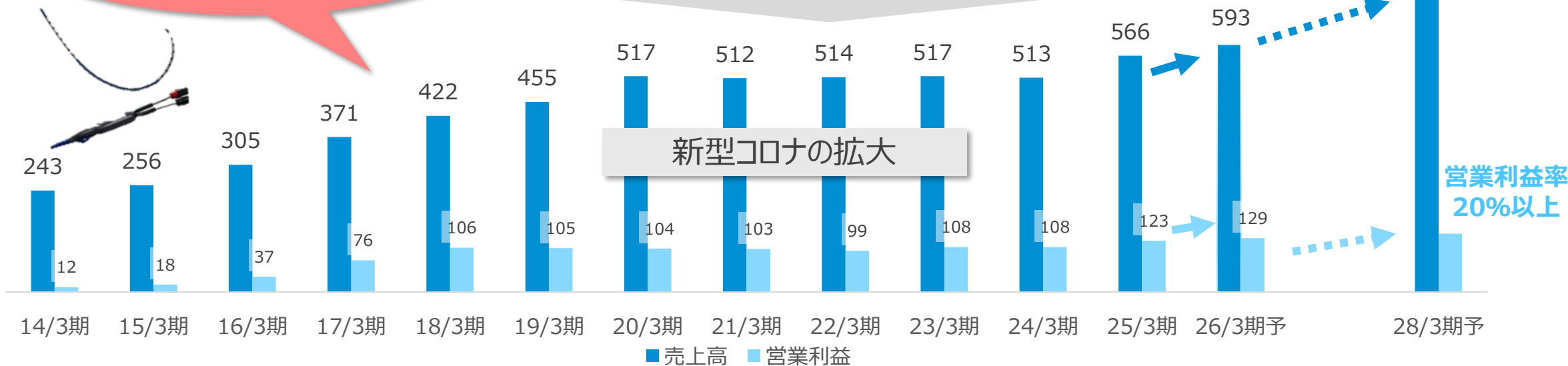
- ✓ 症例数の増加を契機に**自社製品で大きく成長**。ポートフォリオ改革で業績は一時横ばいも、足元は新領域を強化する等の**成長戦略を打ち出し、新たな成長フェーズに向かう**

売上高と営業利益の実績推移（億円）

心房細動症例数の増加
(年20%以上)
に伴うオンリーワン自社製品の急拡大

- (+) 心房細動症例の継続的な増加 (年数%~10%)
- (+) リズムデバイスの仕入先変更 (20/3期)
- (+) 消化器・脳血管領域への新規参入
- (-) 新型コロナの拡大 (20/3期-23/3期)
- (-) インターベンション事業の不振 (24/3期で終了)
- (-) 一部仕入商品の独占販売終了(胸部ステントグラフト、人工心臓弁：19/3期、RFニードル：23/3期)

成長路線へ回帰 **700**

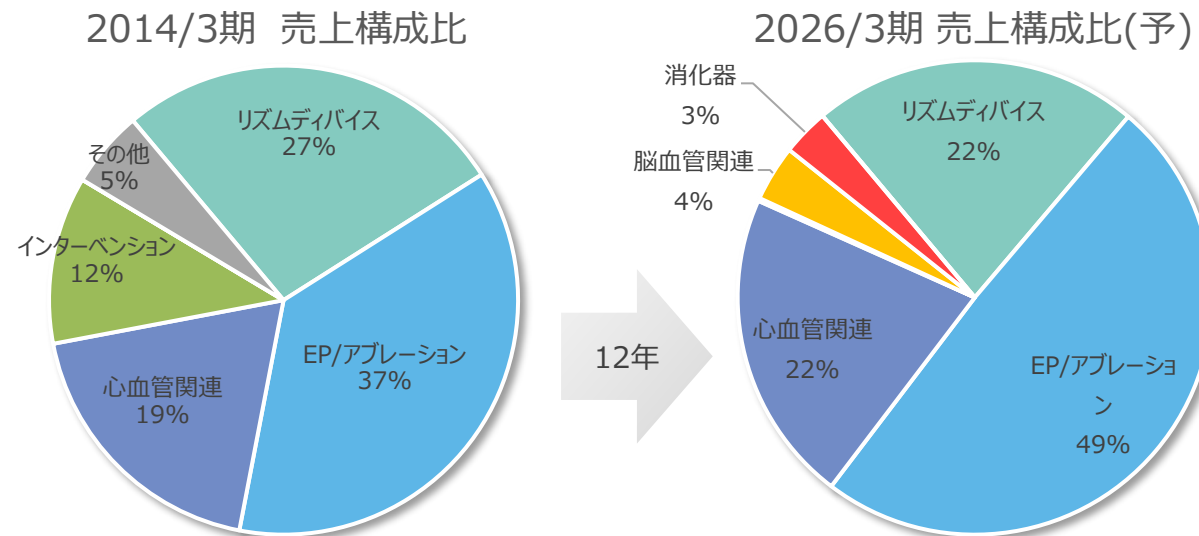
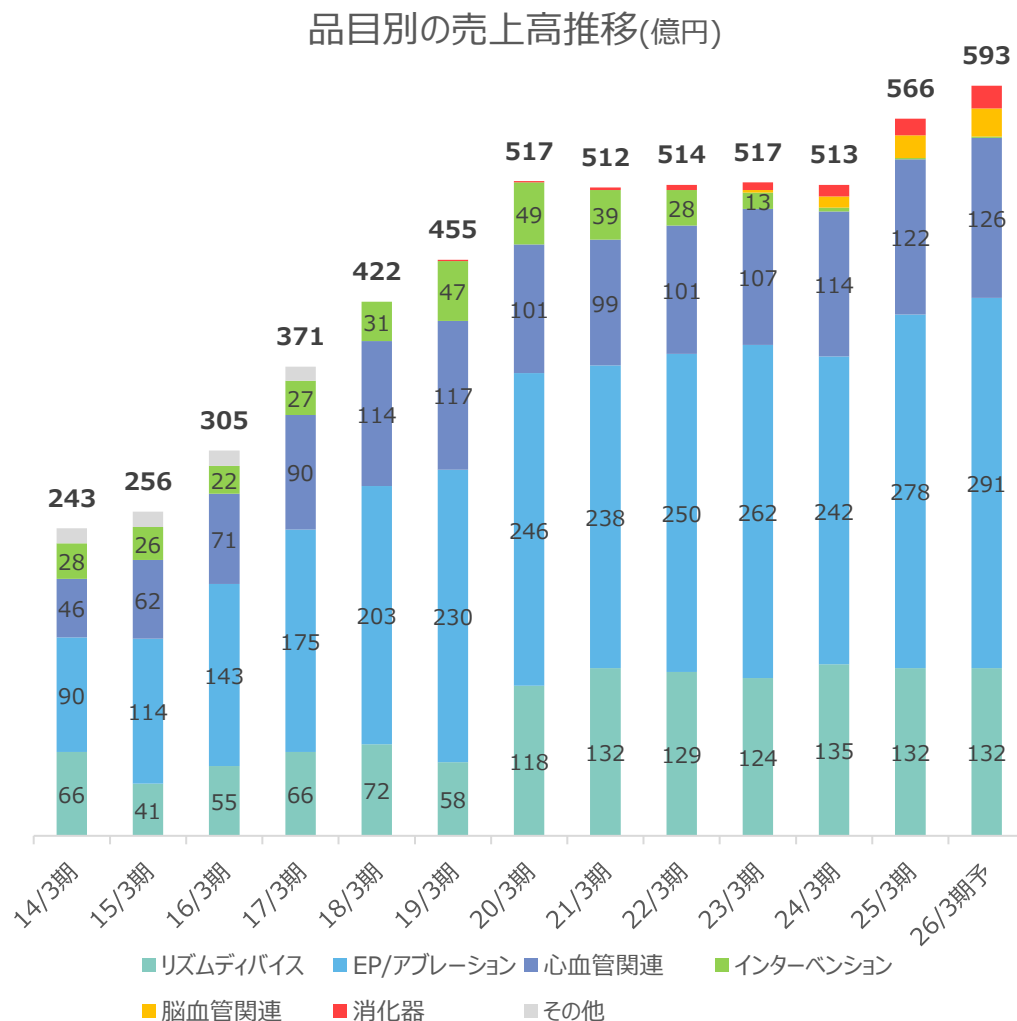


業績**拡大期**

ポートフォリオ**改革期**

業績**再拡大期**

✓ 中核のEP/アブレーションを強化しつつ、成長戦略でポートフォリオの新陳代謝も推進



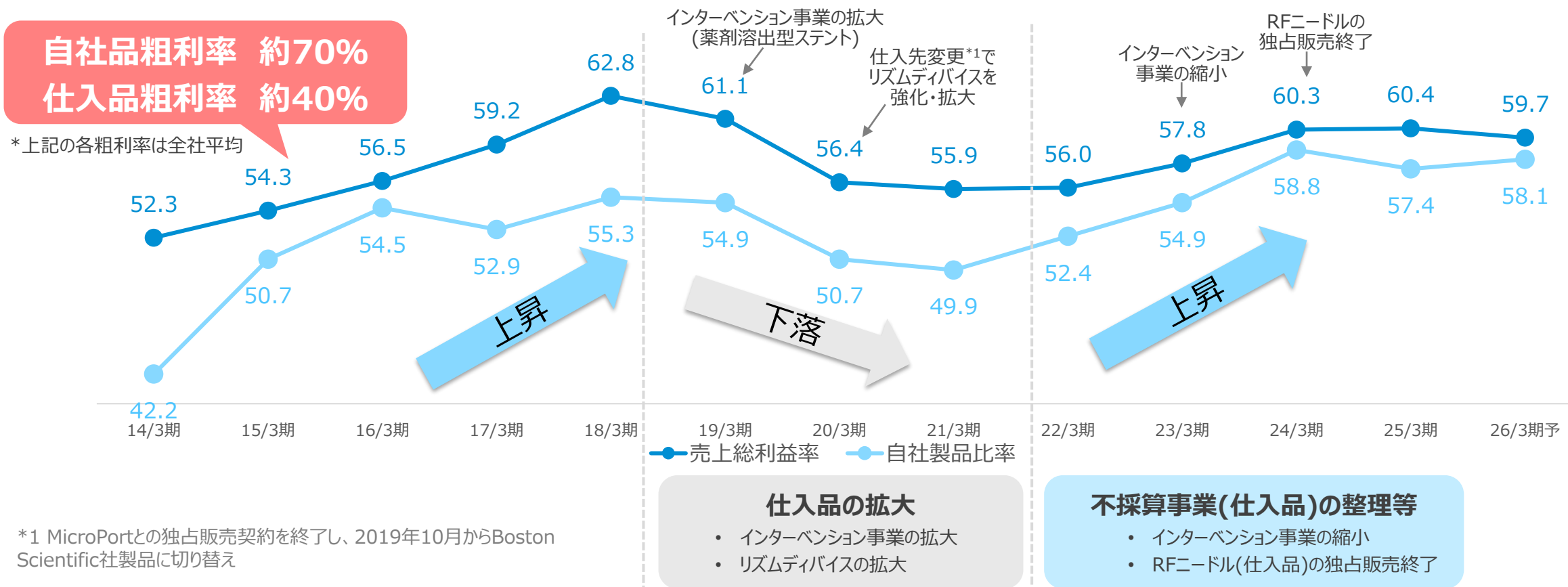
◆ 売上構成比の過去12年間における変化

- **EP/アブレーションは売上高の半分を占める中核事業**に成長
- 競争激化や価格下落による影響で**インターベンションから撤退**あわせて、人的資本もインターベンションから消化器へシフト
- **消化器と脳血管は成長事業と位置づけ、拡大開始**

売上総利益(マージン)の傾向

- ✓ 全社マージンは短～中期では仕入品の動向の影響を受ける。一方、自社製品売上に連動する症例数は増加傾向にあるため、**長期のマージンのベーストレンドは上昇**

売上総利益率と自社製品比率の推移(単位：%)

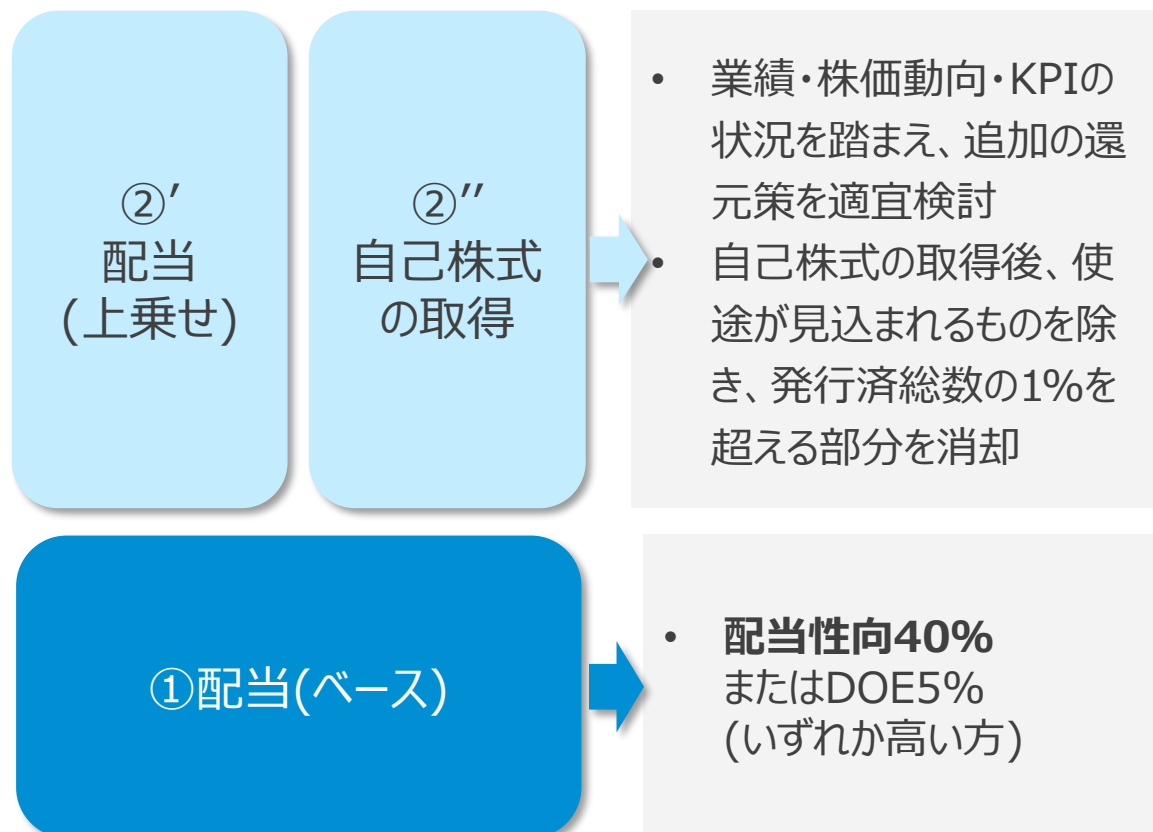


ベーストレンド：症例数増加⇒自社品増加⇒マージン上昇

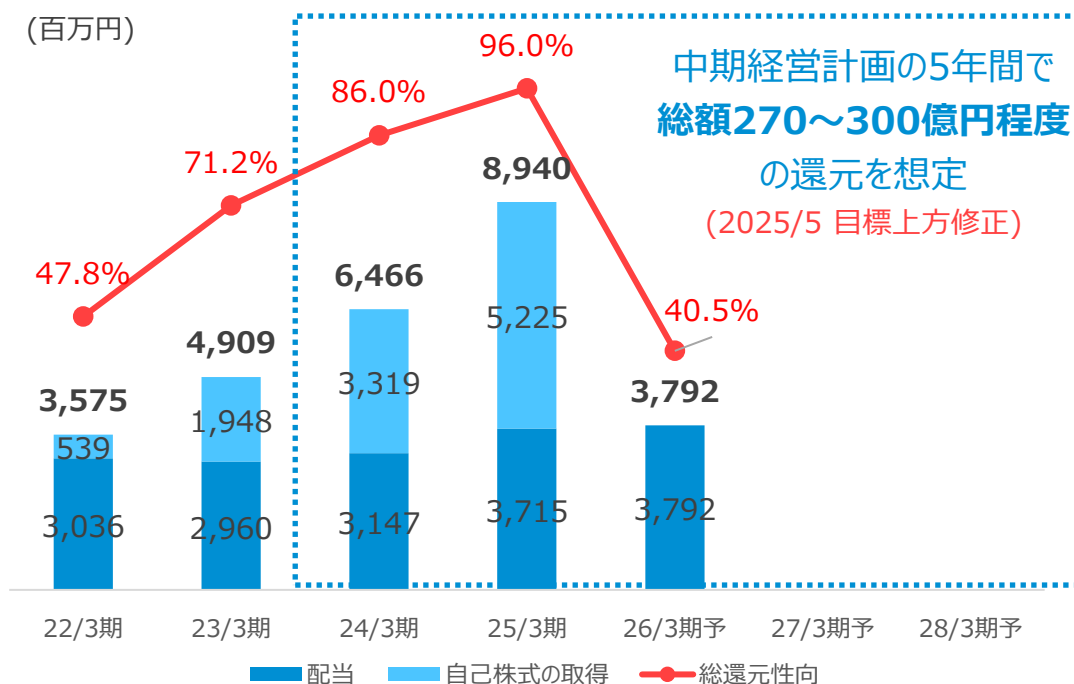
*1 MicroPortとの独占販売契約を終了し、2019年10月からBoston Scientific社製品に切り替え

- ✓ 中期では株主還元を大幅に強化へ。ベースとなる配当は配当性向40%
- ✓ さらに、配当の上乗せや自己株式の取得オプションを適宜検討

◆株主還元の基本方針



株主還元の実績



参考) 配当実績	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期予
EPS(円)	93.13	88.22	98.73	131.43	133.30
配当(円)	38.00	38.00	42.00	53.00	54.00
配当性向(%)	40.8	43.1	42.5	40.3	40.5

商 号	日本ライフライン株式会社
代 表 者	代表取締役社長 鈴木啓介
本 社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設 立	1981年2月6日
上 場 市 場	東京証券取引所 プライム市場
証 券 コ ー ド	7575
事 業 内 容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資 本 金	2,115百万円
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	連結1,250名/単体1,004名(2026年3月31日 現在)
事 業 所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2026年3月31日 現在)
連 結 子 会 社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>